

教職課程自己点検・評価シート

- 3; 適切に実施している
2; 十分に実施していない・改善検討の必要がある
1; 実施していない・改善の必要がある

評価項目1:教育理念・学修目標

NO	レベル	点検項目	評価の基礎となる資料	自己評価 (3,2,1)	取り組み状況・実績	課題
1-1	全学教職課程 研究科・学科等	教員の養成の理念および当該理念を達成するための学修目標が明確な形で設定されているか	教職課程履修の手引き 資格課程(教職課程)webページ	3	教員の養成の理念について、大学および各学部学科・研究科の教育基本方針に基づいて明確に設定し、webページで公開している。教職課程教員養成の目標および計画(教育理念・教員養成の目標、当該目標を達成するための計画、各科の教員養成の目標)について、見直しを行い、webページで公開した。教職課程の各科目シラバス(webページ公開)にて、具体的な到達目標を示している。教職課程のカリキュラムマップ・ツリー等は、教職課程全体を通じた学びの見通しを得るために教職ガイダンスで周知し、Teamsで履修学生に公開している。	HPの情報は、内容の充実とユーザビリティの向上に努める。
1-2	全学教職課程 研究科・学科等	学修目標について、学生や採用権者の意見の考慮、所在する都道府県教育委員会の策定する教員育成指標との関係性の考慮が行われているか	教職課程履修の手引き 資格課程(教職課程)webページ 『教職支援センター紀要』(「教職課程における学修状況」ページ)	3	都道府県教育委員会から講師を招いて、求められる教員像についての講演を設け、本学の教員養成との整合性を検討している。また、教員採用試験の大学推薦枠の検討過程において、教員育成指標との関係について点検している。4年生終了時に「教職課程における学びに関する満足度調査」を実施して学生の意見を収集し、本学教職課程の点検を行っている。	社会の変化と共に新たに求められる資質・能力について継続して検討し、必要に応じて教員養成指標について見直しを行う。
1-3	全学教職課程 研究科・学科等	教職課程での学修成果や自己点検・評価の結果、社会情勢や教育環境の変化等を踏まえた適切な見直しが行われているか	教職課程履修の手引き 資格課程(教職課程)webページ 『教職支援センター紀要』(「教職課程における学修状況」及び「教職課程における学びの振り返り」頁)	3	教職課程での学修成果について、「介護等体験の実習記録」・「教育実習の自己評価」・「教育実習事後指導における教員としての資質・能力の振り返り」・「教職ポートフォリオ(履修カルテ)」による教員としての資質・能力の自己評価」をもとに、質的・量的分析を行い、検証を行っている。また、教職課程での学びについて学生の意見を把握するため、4年生終了時に「教職課程における学びに関する満足度調査」を実施している。これらを踏まえて、成果と課題を整理している。文部科学省の教職課程説明会及び各種調査・依頼等を踏まえ、今後の教職課程や教員免許制度を見据えて、現状実現できていることと新たに取り入れるべきことを整理している。	今後の教職課程や教員免許制度の変革に注視し、本学教職課程のあり方を継続的に検討する。教職課程における学修成果の分析結果や社会情勢や教育環境の変化を踏まえ、カリキュラムや学修内容について改善を進める。

<1の報告事項>(現在の状況、評価できる点、改善を要する点とその改善方策・改善状況)					
(現在の状況) 教員の養成の理念について、大学および各学部学科・研究科の教育基本方針に基づいて明確に設定し、webページで公開している。教職課程教員養成の目標および計画(教育理念・教員養成の目標、当該目標を達成するための計画、各学部学科及び研究科の教員養成の目標)について、見直しを行い、webページ公開を行った。教職課程のカリキュラムマップ・ツリー等は、教職課程全体を通じた学びの見通しを得るために教職ガイダンスで周知し、Teamsで履修学生に公開している。都道府県教育委員会からゲストスピーカーを招いて、求められる教師像について研修する場を設け、本学の教員養成との整合性を検討している。また、教員採用試験の大学推薦枠の検討過程において、教員育成指標との関係について点検している。 教職課程での学修成果について、「介護等体験の実習記録」・「教育実習の自己評価」・「教育実習事後指導における教員としての資質・能力の振り返り」・「教職ポートフォリオ(履修カルテ)」による教員としての資質・能力の自己評価」をもとに、質的・量的分析を行い、検証を行っている。また、教職課程での学びについて学生の意見を把握するため、4年生終了時に「教職課程における学びに関する満足度調査」を実施している。これらを踏まえて、成果と課題を整理している。文部科学省の教職課程説明会及び各種調査・依頼等を踏まえ、今後の教職課程や教員免許制度を見据えて、現状実現できていることと新たに取り入れるべきことを整理している。 (評価できる点) 教職課程教員養成の目標および計画(教育理念・教員養成の目標、当該目標を達成するための計画、各科の教員養成の目標)について、見直しを行い、公開した。 学生の教職関連の情報把握をより確かなものにするため、ポータルやTeamsを活用し、内容・デザイン・時期等、配慮の行き届いた働きかけを行っている。 教職課程での学修成果について、質的・量的な分析を行い、結果を公表している。「教職課程における学びに関する満足度調査」によって、学生の意見・要望を把握し、教職課程のカリキュラムや学修内容について改善に努めている。 (改善を要する点とその改善方策・改善状況) 教職課程の情報は、ポータルやTeamsでは十分なものになっているが、HPの情報は内容の充実とユーザビリティの向上に努める必要がある。今後の教職課程や教員免許制度の変革に注視し、本学教職課程のあり方を継続的に検討する。教職課程における学修成果の分析結果や社会情勢や教育環境の変化を踏まえ、カリキュラムや学修内容について改善を進める。					

評価項目2:授業科目・教職課程の編成及び実施

NO	レベル	点検項目	評価の基礎となる資料	自己評価 (3,2,1)	取り組み状況・実績	課題
2-1	全学教職課程	複数の教職課程における授業科目の共通開設など全学的な教育課程の編成が適切に行われているか	教育に関する基礎的科目等の教育課程表	3	教育に関する基礎的科目等は、2学部3学科で共通開設している。	必修科目との重なりなどにより他の教育課程との時間割の調整を要する場合があるが、重複教職科目の複数時間開講等により対応している。
2-2	全学教職課程 研究科・学科等	ICT環境、模擬授業用の教室、関連図書など、教職課程の学びに必要な施設・設備が整備されているか	教科用図書の整備 設備一覧	3	教職支援センターにて教科用図書や学習指導要領、教育新聞等を整備している。ICT環境について、従来のTeamsアプリに加え、新たに学生がICTを活用した授業づくりの学びために、教育現場での使用実績が高いロイロノート・スクールを導入し、「教育の方法と技術・教育におけるICT活用」・「教職実践演習」・「教育実習事後指導」・「国語科教育法」で活用した。	ロイロノートは、「教育の方法と技術・教育におけるICT活用」・「教職実践演習」・「教育実習事後指導」・「国語科教育法」で活用しているが、他の教職課程の授業でも活用することで学生のICT活用スキルの向上を図りたい。
2-3	全学教職課程 研究科・学科等	法令及び教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画と対応し必要な授業科目が開設され適切な役割分担が図られているか。教職課程以外の科目との関連性が適切に確保されているか	各学科の「教科及び教科の指導法に関する科目」及び「教育の基礎的理解に関する科目」の教育課程表	3	法令及び教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画と対応し必要な授業科目を開設している。各学科の専門性を活かした教員養成が行えるよう、教科及び教科の指導法に関する科目を設定し、カリキュラム編成を行っている。今年度は、経済情報学部の、教科及び教科の指導法に関する科目の一部見直しを行った。	今後の教職課程や教員免許制度の改訂を踏まえ、本学の強み・専門性を活かした特色ある教員養成が行えるよう、科目設定や科目内容の見直しを行っていく。
2-4	全学教職課程 研究科・学科等	教員として身に付けることが必要なICT活用指導力の全体像に対応して、各科目間の役割分担が適切に図られているか	シラバスの講義計画	3	1年次「教育の方法と技術・教育におけるICT活用」で基礎理論及び学校現場での活用事例を学び、3年次各教科教育法で教科における活用を実践し、4年次「教職実践演習」で効果的な活用のあり方を探究するように設計している。なお、1年次の「教育の方法と技術・教育におけるICT活用」では、一コマ分の授業で県教育委員会から講師を招き、具体的実践事例や自治体としての考え方も含めて講義をいただいた。	左に上げた科目以外の教科目においても、課題探究的な学修活動にICTを活用することで、学生のICT活用スキルの向上を図りたい。

2-5	全学教職課程 研究科・学科等	キャップ制をふまえたうえで、卒業までに修得すべき単位を有効活用して特色ある教職課程教育を行っているか	キャップ制に関する説明資料 各学科の「教科及び教科の指導法に関する科目」	3	各学科キャップ制を設け、適切な履修を促している。キャップ制については学生便覧に説明を記載している。本学の強み・専門性を活かした特色ある教員養成が行うため、学科の専門演習に教科教育学を位置づけ卒業要件単位とし、また、学科専門科目から教科及び教科の指導法に関する科目を設定している。	令和7年12月18日中央教育審議会教職課程・免許・大学院課程ワーキンググループ第4回会議において示された「今後の教職課程や教員免許制度のあり方について（中間まとめ）案」にみえる「強み専門性に係る内容」を今後検討すべきであることを見据え、本学の強み・専門性を活かした特色ある教員養成が行えるよう、継続して教科及び教科の指導法に関する科目の科目設定や科目内容の見直しを行っていく。
2-6	全学教職課程 研究科・学科等	学修成果や自己点検・評価の結果等をふまえて教育課程の充実が図られ、適切な見直しが行われているか	教職課程自己点検評価シート 『教職支援センター紀要』（「教職課程における学修状況」及び「教職課程における学びの振り返り」頁）	3	教職課程での学修成果について、「介護等体験の実習記録」・「教育実習の自己評価」・「教育実習事後指導における教員としての資質・能力の振り返り」・「教職ポートフォリオ（履修カルテ）による教員としての資質・能力の自己評価」をもとに、質的・量的分析を行い、『教職支援センター紀要』にて公開した。また、学生の意見収集として、4年生終了時に「教職課程における学びに関する満足度調査」を実施して、結果を『教職支援センター紀要』にて公開した。これらで明らかになった課題や会情勢・教育環境の変化等を踏まえて、教職支援センター運営委員会で、教職課程各科目の学修内容や環境整備の改善を進めている。	今後、新たに明らかになった課題や社会情勢・教育環境の変化等を踏まえて、教職課程各科目の学修内容や環境整備の改善を図っていく。
2-7	授業	シラバスの作成状況 シラバスに教職にかかわる授業科目の目的や到達目標・内容が明確に設定されているか 授業科目の目的と到達目標、内容と方法、計画、成績評価基準、事前学修と事後学修の内容が記載されているか	シラバス シラバスの書き方	3	シラバスに教職にかかわる授業科目の目的や到達目標・内容は明確に示されている。授業科目の目的と到達目標、内容と方法、計画、成績評価基準、事前学修と事後学修の内容等、「コア・カリキュラム」を実現するものになっていることを点検・確認している。本学が定める「シラバスの書き方」に記載のシラバス作成基準に沿って記載されている。	科目及び担当者の変更がある際、シラバスが適切に記載されているか、複数教員による点検を行う。
2-8	授業	到達目標に応じて、アクティブラーニングやICTを活用した新たな手法を導入し、「考える」「話す」「行動する」などの多様な学びをもたらす工夫が行われているか	シラバス	3	アクティブ・ラーニングについては、全学的に推進されている。ポータルで「アクティブ・ラーニング科目一覧」が提示されており、各授業の手法が明示される中に、教職課程の科目の位置づけも示されている。さらに、シラバスには「アクティブ・ラーニングや動画の活用等、学生の主体的な学修を促進するための授業の工夫について、そのねらいと具体的な授業内容がわかるように」記載する欄が設定されている。	新たに有効な手法がないか研修に努め、活用を進める。
2-9	授業	学修成果や授業改善アンケートの結果をふまえて個々の授業科目の適切な見直しが行われているか	授業改善アンケート	3	全学的に各授業で中間と最終に授業改善アンケートが実施され、個々の授業科目についての問題点を共有し、改善を図っている。	教職課程の科目については、教務係がアンケート結果を確認して個々の授業科目の問題点を把握し、教職支援センター運営委員会において情報共有をはかっている。
2-10	授業	教育実習、学校体験活動、教職実践演習が事前事後指導を含め適切に行われているか ・教育実習を行ううえで必要な履修要件を設定しているか ・地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新の事情について学生が理解する機会を設けているか	当該授業科目のシラバス 教育実習・学校体験活動の手引き 『教職支援センター紀要』『教職課程における学びの振り返り』・「学校体験活動報告」・「教育実習報告」	3	教育実習、学校体験活動、教職実践演習、事前事後指導は、学生の資質・能力の現状や課題に即して、個別の指導を多く取り入れている。「介護等体験の実習記録」・「教育実習の自己評価」・「教育実習事後指導における教員としての資質・能力の振り返り」・「教職ポートフォリオ（履修カルテ）による教員としての資質・能力の自己評価」をもとに、質的・量的分析を行って検証し、『教職支援センター紀要』『教職課程における学びの振り返り』で報告している。また、個々の学生の成果の具体を、『教職支援センター紀要』に「学校体験活動報告」・「教育実習報告」で報告している。教育実習を行う上で必要な履修要件を「3年次までに修得が必要な「教育の基礎的理解に関する科目等」の単位と、実習教科の指導法にかかわる必修科目の単位をすべて修得していること」と設定しており、3年生3月に個人面談で履修状況を確認している。「教職実践演習」と「国語科教育法」において、学生が地域の中学校・高等学校の公開研究会で優れた教育実践に学ぶ機会を設けた。『教育実習の手引き』及び『学校体験活動の手引き』を、適切に円滑に学生が実習できるよう改訂した。	地域の中学校・高等学校の公開研究会への参加について、左記以外の教科教育法の授業での実施も検討したい。

< 2の報告事項 >（現在の状況、評価できる点、改善を要する点とその改善方策・改善状況）				
（現在の状況）ICT環境について、従来のTeamsアプリに加え、新たに学生がICTを活用した授業づくりの学ぶために教育現場での使用実績が高いロイロノート・スクールを導入し、「教育の方法と技術・教育におけるICT活用」・「教職実践演習」・「教育実習事後指導」・「国語科教育法」で活用した。 教職課程での学修成果について、「介護等体験の実習記録」・「教育実習の自己評価」・「教育実習事後指導における教員としての資質・能力の振り返り」・「教職ポートフォリオ（履修カルテ）による教員としての資質・能力の自己評価」をもとに、質的・量的分析を行って検証し、『教職支援センター紀要』にて報告した。また、学生の意見を把握するため、4年生終了時に「教職課程における学びに関する満足度調査」を実施して、結果を『教職支援センター紀要』にて公開した。これらで明らかになった課題や社会情勢・教育環境の変化等を踏まえて、教職課程各科目の学修内容や環境整備の改善点を整理している。 教育実習、学校体験活動、教職実践演習は、事前事後指導を含め、学生の資質・能力の現状や課題に即して、個別の指導を多く取り入れている。また、個々の学生の成果の具体を『教職支援センター紀要』に「学校体験活動報告」・「教育実習報告」で報告した。『教育実習の手引き』及び『学校体験活動の手引き』を、適切に円滑に学生が実習できるよう改訂した。 （評価できる点） 教職課程での学修成果について、質的・量的分析を行って検証し、『教職支援センター紀要』にて公開している。 新たに学生がICTを活用した授業づくりの学ぶために、教育現場での使用実績が高いロイロノート・スクールを導入し、「教育の方法と技術・教育におけるICT活用」・「教職実践演習」・「教育実習事後指導」・「国語科教育法」で活用した。「教職実践演習」と「国語科教育法」において、学生が地域の中学校・高等学校の公開研究会で優れた教育実践に学ぶ機会を設けた。 （改善を要する点とその改善方策・改善状況） 今後の教職課程や教員免許制度の改訂を踏まえ、本学の強み・専門性を活かした特色ある教員養成が行えるよう、科目設定や科目内容の見直しを進めていく。現在、今後の教職課程や教員免許制度の在り方について、文部科学省の課程認定説明会に出席するなどして情報収集を行い、必要な対応を検討している。				

評価項目3：学修成果の把握・可視化の状況

NO	レベル	点検項目	評価の基礎となる資料	自己評価 (3,2,1)	取り組み状況・実績	課題
3-1	全学教職課程	成績評価に関する全学的な基準の策定・公表の状況	成績評価のガイドライン (全学共通のものを適用)	3	成績評価のガイドラインが全学的に策定され、公表されている。	引き続き成績評価のガイドラインが適切に実施されるよう、科目担当者が変更となる際には複数の委員による点検を行っていく。
3-2	全学教職課程 研究科・学科等	教員養成の目標の達成状況を明らかにするための確認指標が適切に設定されており、教職実践演習に向けて「教職履修カルテ」を適切に活用できているか	教職履修カルテ コメント入力例	3	履修カルテを活用して、各学生の教職履修上の課題について、各学年当初に個別指導を行っている。	学生自身の「履修カルテ」の活用について、効果的な指導を検討する。

3-3	授業	成績評価の状況 ・各授業科目の到達目標に照らしてできるだけ定量的または定性的に達成水準を明らかにし、厳格に点数・標語に反映することができているか ・公正で透明な成績評価という観点から達成水準を測定する手法やその配点基準があらかじめ明確になっているか	シラバス	3	到達目標及び成績評価基準について、シラバスに明記している。	教育政策や社会的な教育課題の動向を踏まえ、シラバス及び教職履修カルテの適切な改善を継続的に行う。
<3の報告事項>（現在の状況、評価できる点、改善を要する点とその改善方策・改善状況）						
（現在の状況）成績評価のガイドラインに則って、各教職科目の到達目標及び成績評価規準について、シラバスに明記している。 （評価できる点）教職履修カルテの確認指標を設定を明示し、各学生に合わせた教職履修課題の個別の指導にあたっている。 （改善を要する点とその改善方策・改善状況）学生自身の「履修カルテ」の活用について、効果的な指導を検討する。教育政策や社会的な教育課題の動向を踏まえ、シラバス及び教職履修カルテの適切な改善を継続的に行う。						

評価項目4:教職員組織の状況

NO	レベル	点検項目	評価の基礎となる資料	自己評価 (3,2,1)	取り組み状況・実績	課題
4-1	全学教職課程	必要専任教員数を充足しているか 授業担当者がその授業科目を担当するのにふさわしい研究業績を有しているか 実務経験を有する教員を配置しているか	担当教員交代・任用時の審議議事録 教職課程変更届	3	必要専任教員数を充足している。非常勤講師を含む教職科目の担当教員については、業績審査を行い、公募制で採用している。 実務経験を有する教員は、経済情報学科2名、日本文学科1名、美術学科15名を配置している。	今後の各学科の人事計画において、必要専任教員数の充足を継続するものとする。
4-2	全学教職課程	教職課程を適切に運営するための組織を設け、必要な教員・職員を配置し、役割・機能を明確化しているか	組織図、教職支援センター規程 教職支援センター運営委員会規程	3	教職支援センターを設け、組織図・規程によって役割・機能を明確化し、適切な教職課程の運営にあたっている。 教員採用等出口サポートにおいて、キャリアサポートセンターとの円滑で有効な組織的連携を行っている。	継続的に教職支援センター運営委員会の業務内容の充実と円滑な運営を図る。
4-3	全学教職課程	教職課程全体の質的向上につながるFD・SDが行われているか	『教職支援センター紀要』『研究報告・論文』 説明会・講習会参加資料	2	教職課程独自にFDの設定はしていないが、全学的なFD研修会へ参加するなどの方法をとっている。教職課程の実習科目や実践的な演習科目において、複数の教員が担当し、互いに研鑽している。 『教職支援センター紀要』に、教員の教育関係の研究報告・論文を掲載し、公開している。外部の講習会や勉強会へ参加して得られた情報について、教職支援センターで共有している。	教職課程独自のFDについて、非常勤講師の参加を含め、検討していく。 積極的に外部の教職課程運営に関する研修を参加し、学内の情報共有や研修を通して、教育政策や社会的な教育課題の動向を踏まえた教職課程運営の適切な改善を継続的に行う。
<4の報告事項>（現在の状況、評価できる点、改善を要する点とその改善方策・改善状況）						
（現在の状況）必要専任教員数を充足している。非常勤講師を含む教職科目の担当教員については、業績審査を行い、公募制で採用している。実務経験を有する教員は、経済情報学科2名、日本文学科1名、美術学科15名を配置している。教職支援センターを設け、組織図・規程によって役割・機能を明確化し、教職課程の運営にあたっている。教職課程独自にFDの設定はしていないが、全学的なFD研修会へ参加するなどの方法をとっている。外部の講習会や勉強会へ参加して得られた情報について、教職支援センターで共有している。 （評価できる点）教職支援センターが、教職課程の組織図、規定に基づいて、円滑に運営されている。教員採用等出口サポートにおいて、キャリアサポートセンターとの円滑で有効な組織的連携を行っている。『教職支援センター紀要』に、教員の教育関係の研究報告・論文を掲載し、互いの研鑽に資している。 （改善を要する点とその改善方策・改善状況）今後の各学科の人事計画において、必要専任教員数の充足を継続する。継続的に教職支援センター運営委員会の業務内容の充実と円滑な運営を図る。教職課程独自のFDについて、非常勤講師の参加を含め、検討していく。積極的に外部の教職課程運営に関する研修を参加し、学内の情報共有や研修を通して、教育政策や社会的な教育課題の動向を踏まえた教職課程運営の適切な改善を継続的に行う。						

評価項目5:情報公表の状況

NO	レベル	点検項目	評価の基礎となる資料	自己評価 (3,2,1)	取り組み状況・実績	課題
5-1	全学教職課程	法令に定められた情報公表が学外者にもわかりやすく適切に行われているか	資格課程(教職課程)webページ	3	「教員養成の理念と目標」、「教員養成に係る組織及び支援体制」、「卒業者の教員免許状取得状況及び教員就職状況」、「教員養成に係る授業科目」、「授業科目担当教員」、「教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組に関すること」、「教職課程自己点検評価の実施方針」をweb公表している。新たに、子ども性暴力防止法(学校設置者等及び民間教育保育等事業者による児童対象性暴力等の防止等のための措置に関する法律)に伴う処置についてweb公開した。「教職課程自己点検評価」については、本学自己点検・評価委員会を通じて公表している。	学生や学外からの利用者にわかりやすく最新の情報を提供できるよう、継続して見直しを図る。
5-2	全学教職課程	必要な資質・能力を備えた学生を育成できているか、エビデンスとともに説明できるか	『教職支援センター紀要』『教職課程における学修状況』『教職課程における学びの振り返り』	3	教員就職率等の基礎資料を『教職支援センター紀要』で報告している。学生の教員としての資質・能力の獲得について、「介護等体験の実習記録」・「教育実習の自己評価」・「教育実習事後指導における教員としての資質・能力の振り返り」・「教職ポートフォリオ(履修カルテ)による教員としての資質・能力の自己評価」をもとに、質的・量的分析を行って検証し、『教職支援センター紀要』にて報告している。	教職課程における学びの振り返りについて、仕組みや分析方法は整備されているが、今後データを蓄積して経時的な分析を行いたい。
5-3	全学教職課程	根拠となる資料やデータを示しつつ、わかりやすい自己点検・評価の結果を公表することができているか	点検評価シート 資格課程(教職課程)webページ 教職支援センター紀要掲載情報	3	「教職課程の内部質保証の実施要領」に基づき、教職支援センターにおいて根拠となる資料やデータを明確にした自己点検・評価を行い、これを本学自己点検・評価委員会を通じて公表している。	教職課程の内部質保証の公開の仕方については、引き続き検討していく。
<5の報告事項>（現在の状況、評価できる点、改善を要する点とその改善方策・改善状況）						

(現在の状況) 法令に定められた情報公表が行われている。教員就職率等の基礎資料を『教職支援センター紀要』で報告している。学生の教員としての資質・能力の獲得について、「介護等体験の実習記録」・「教育実習の自己評価」・「教育実習事後指導における教員としての資質・能力の振り返り」・「教職ポートフォリオ(履修カルテ)」による教員としての資質・能力の自己評価をもとに、質的・量的分析を行って検証し、『教職支援センター紀要』にて報告している。「教職課程の内部質保証の実施要領」に基づき、教職支援センターにおいて根拠となる資料やデータを明確にした自己点検・評価を行い、これを自本学自己点検・評価委員会を通じて公表している。 (評価できる点) 教員就職率等の教職課程における学修状況を、各年度の『教職支援センター紀要』で継続的に公開している。学生の教員としての資質・能力の獲得について、質的・量的に分析して可視化し、『教職支援センター紀要』で公開している。新たに、子ども性暴力防止法(学校設置者等及び民間教育保育等事業者による児童対象性暴力等の防止等のための措置に関する法律)に伴う処置について定め、Web公開した。 (改善を要する点とその改善方策・改善状況) 教職課程における学びの振り返りについて、今後データを蓄積して経時的な分析をしたい。教職課程の内部質保証の公開の仕方については、引き続き検討していく。		
---	--	--

評価項目6：教職指導(学生の受け入れ・学生支援)の状況

NO	レベル	点検項目	評価の基礎となる資料	自己評価 (3,2,1)	取り組み状況・実績	課題
6-1	全学教職課程	教職課程に関する積極的な情報提供ができているか	教職ガイダンス資料 Teams「教職課程」チャネル	3	教職支援センター運営委員会委員が学年別の「教職ガイダンス」を年2回各学期始めに行っている。またポータルシステムやTeamsを活用して、各種ガイダンスや教員採用試験報告会等の案内を行い、また教職に関する各種情報の提供を行っている。また、大学推薦情報をはじめとする教員採用試験などについて、キャリアサポートセンターと連携し、必要情報の周知を行っている。	引き続き、学生が必要な教職課程に関する各種情報を漏らさずキャッチアップできるよう、情報提供の仕方の工夫に努める。
6-2	全学教職課程 研究科・学科等	個々の学生の教職に対する意欲をふまえつつ、履修指導を行っているか	教職履修カルテ 学生の入力と教員のコメント例	3	教職ポートフォリオ(履修カルテ)を活用して、教職支援センター運営委員会委員の教員が履修指導を行っている。教職ポートフォリオ(履修カルテ)への学生の入力を指導し、学年はじめには点検とフィードバックを行っている。	教職ポートフォリオ(履修カルテ)について、4年次における教員としての資質・能力の振り返りには十分に活用しているが、それまでの各学年の過程で学生の課題意識と目標意識を明確にした学びに活用できるよう指導を継続する必要がある。
6-3	全学教職課程	学生のニーズに応じたキャリア支援体制が適切に構築されているか	キャリアサポートセンターの 学内説明会・報告会案内等	3	キャリアサポートセンターと連携し、大学推薦情報や臨時的任用講師募集説明会などの情報を配信している。今年度は、キャリアサポートセンターを通じて3年次に教員採用試験の受験を行った学生の把握をし、必要に応じて学生にアドバイスを行える体制をとることとした。また、大学所在地の県教育委員会による学内説明会を開催し、学生に参加を呼びかけている。翌年教職に就く学生を講師とした「教員採用試験報告会」を12月に開催し、教員採用試験に向けた取り組み方について1～3年生の研修の場を設けている。教員採用試験対策オンライン講座について、これまでの直前対策講座に加えて、早い時期から取り組める講座を新たに導入し、学生の教員採用へ向けての支援を強化した。	キャリアサポートセンターからの定期的な情報集約の仕組みがありチューター教員が学生のキャリアの把握に努めているが、学生からの報告をより確かなものにしていきたい。教員採用試験の大学推薦について、キャリアサポートセンターと教職支援センターが連携して推薦者の決定から応募まで手続きが整備され問題なく運用されているが、今後の採用制度の変化に応じて対応を行う。卒業後に教職への採用があった場合の情報収集窓口を設けているが、卒業生からの報告を増やす手立てが必要。また、卒業後の相談について、個別に要望に応じているが、仕組みとしての検討が課題。

<6の報告事項>(現在の状況、評価できる点、改善を要する点とその改善方策・改善状況)		
(現在の状況) 教職支援センター運営委員会委員が学年別の「教職ガイダンス」を年2回各学期始めに行っている。またポータルシステムやTeamsを活用して、各種ガイダンスや教員採用試験報告会等の案内を行い、また教職に関する各種情報の提供を行っている。教職ポートフォリオ(履修カルテ)を活用して、教職支援センター運営委員会委員の教員が履修指導を行っている。キャリアサポートセンターと連携し、大学推薦情報や臨時的任用講師募集説明会などの情報を配信している。また、大学所在地の県教育委員会による学内説明会を開催し、学生に参加を呼びかけている。翌年教職に就く学生を講師とした「教員採用試験報告会」を12月に開催し、教員採用試験に向けた取り組み方について1～3年生の研修の場を設けている。 (評価できる点) ポータルサイト及びTeamsを通じて、各種ガイダンスや教員採用試験報告会等の案内を行い、教職課程に関する各種情報提供を行い、学生が確実に把握できるよう努めている。また、大学推薦情報をはじめとする教員採用試験などについて、キャリアサポートセンターと連携し、必要情報の周知に努めている。教職ポートフォリオ(履修カルテ)への学生の入力を指導し、学年はじめには点検とフィードバックを行っている。教員採用試験対策オンライン講座について、これまでの直前対策講座に加えて、早い時期から取り組める講座を新たに導入し、学生の教員採用へ向けての支援を強化した。 (改善を要する点とその改善方策・改善状況) 教職ポートフォリオ(履修カルテ)の活用について、4年次における教員としての資質・能力の振り返りには十分に活用しているが、それまでの各学年の過程で学生の課題意識と目標意識を明確にした学びになるよう指導を継続する必要がある。キャリアサポートセンターからの定期的な情報集約の仕組みがありチューター教員が学生のキャリアの把握に努めているが、学生からの報告をより確かなものにしていきたい。教員採用試験の大学推薦について、キャリアサポートセンターと教職支援センターが連携して推薦者の決定から応募まで手続きが整備され問題なく運用されているが、今後の採用制度の変化に応じて対応を行う。卒業後に教職への採用があった場合の情報収集窓口を設けているが、卒業生からの報告を増やす手立てが必要。また、卒業後の相談について、個別の要望に応じているが、仕組みとしての検討が課題。		

評価項目7：関係機関等との連携の状況

NO	レベル	点検項目	評価の基礎となる資料	自己評価 (3,2,1)	取り組み状況・実績	課題
7-1	全学教職課程	教員の採用を担う教育委員会等と連携・交流を図り、教育課程や学生指導の充実につなげることができているか	学内説明会資料等 研修における学生の感想	3	教育委員会職員による教員になるための学内説明会を12月に行っている。「教職実践演習」及び「教育の方法と技術・教育におけるICT活用」、「教師論」の授業で教育委員会職員をゲストスピーカーとした研修を実施している。また、「介護等体験」事前学習では、社会福祉協議会職員をゲストスピーカーとして、福祉現場の知見から学ぶ機会を設けている。	学生の教員としての資質・能力の育成をさらに充実させるため、引き続き教育委員会と連携して、内容の充実を図る。
7-2	全学教職課程 研究科・学科等	教育実習・学校体験活動・学校ボランティア等を実施する学校と連携・協力を図り、実習や体験活動の適切な実施につなげることができているか	実習校へのアンケート 『教職支援センター紀要』「ボランティア活動」・「学校体験活動報告」・「教育実習報告」	3	教育実習校・学校体験活動実習校と実習前の協議・実習中の訪問指導・実習後の意見収集によって、連携・交流を継続して行っている。『教職支援センター紀要』に学生の「ボランティア活動」・「学校体験活動報告」・「教育実習報告」を掲載し、実習の成果を公開しており、これを実習校にも届けている。新たに、教育実習及び学校体験活動におけるハラスメント防止について、実習校への依頼を行った。	教育委員会や地域の学校とのさらなる連携・交流について、持続可能な形での方法を今後も検討していく。

7-3	全学教職課程 研究科・学科等	学内外の諸機関との連携のもと、教育課程を充実させるために多様な人材をゲストスピーカー等として活用することができるか	報告会資料等 研修における学生の感想	3	翌年教職に就く学生を講師とした「教員採用試験報告会」を12月に開催し、教員採用試験に向けた取り組み方について1～3年生の研修の場を設けている。「教職実践演習」及び「教育の方法と技術・教育におけるICT活用」、「教師論」の授業で教育委員会職員をゲストスピーカーとした研修を実施している。	教職課程の学びのさらなる充実のため、引き続き教育委員会や地域の学校との連携の機会を積極的につくる。
-----	-------------------	---	-----------------------	---	--	---

<7の報告事項>（現在の状況、評価できる点、改善を要する点とその改善方策・改善状況）						
（現在の状況） 翌年に教職につく学生を中心とした報告会を12月に行っている。教育委員会職員による教員になるための学内説明会を12月に行っている。「教職実践演習」及び「教育の方法と技術・教育におけるICT活用」、「教師論」の授業で教育委員会職員をゲストスピーカーとした研修を実施している。また、「介護等体験」事前学習では、社会福祉協議会職員をゲストスピーカーとして、福祉現場の知見から学ぶ機会を設けている。教育委員会と連携して行う行事に際しては、準備から振り返りまでの過程で、教育委員会職員と意見交換を行っている。教育実習校・学校体験活動実習校と実習前の協議・実習中の訪問指導・実習後の意見収集によって、連携・交流を継続して行っている。『教職支援センター紀要』に学生の「学校体験活動報告」及び「教育実習報告」を掲載し、実習の成果を公開しており、これを実習校にも届けている。 （評価できる点） 教育委員会と連携して、学生が教育委員会関係者から教員の仕事の意義や実際に学ぶ機会を実現している。教育実習校・学校体験活動先の学校等との連携・交流を、機会を捉えて積極的に行っている。『教職支援センター紀要』に、学生の「ボランティア活動」・「学校体験活動報告」・「教育実習報告」を掲載し、実習の成果を実習校と共有することができるようにしている。 新たに、教育実習及び学校体験活動におけるハラスメント防止について、実習校への依頼を行った。 （改善を要する点とその改善方策・改善状況） 学生の教員としての資質・能力の育成をさらに充実させるため、引き続き教育委員会との連携して、内容の充実を図る。						

評価項目8:その他必要と認められる事項

NO	レベル	点検項目	評価の基礎となる資料	自己評価 (3,2,1)	取り組み状況・実績	課題

<8の報告事項>（現在の状況、評価できる点、改善を要する点とその改善方策・改善状況）						